

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホームこせん 1F		
所在地	熊本市中央区壺川二丁目3-70		
自己評価作成日	令和6年3月13日	評価結果市町村受理日	令和6年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習場に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中学校があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。開設3年目を迎え、地域の方や他事業所からも様々な場面で声掛けを頂いている。又、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近づける支援体制となっている。沢山の方々を支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員になれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

坪井川沿いの閑静な住宅街の中に、平成23年4月に開設した“グループホームこせん”は、法人の方針を大切にしながらグループホームらしい家庭的な支援に努めている。ここ数年コロナ禍で家族とのコミュニケーションがうすくなっており、ホームからの個別報告書は楽しみや安心に繋がっており、感謝の言葉が寄せられている。この3月末には久しぶりに家族会の開催が計画されている。この中で運営推進会議や安全対策の他、ここ数年の取組について報告と意見交換を行い、終了後は花見も計画したいと管理者は語っている。ホームはこの4月から新たな体制でスタートする事となっているが、これまでの良き所を継続しながら、職員のチームワークで入居者・家族の思いに応えるホーム、地域の方々と支え合うホームとして新たな年月を重ねていかれる事を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の重度化に伴い 特にオムツ外し、夜間入浴の法人理念については現状に即したやり方に対応してるのが基となっている。管理者の交代となる来年度、事業所理念を立て直すことが課題として残った。	ホームでは入居者の重度化が進んでおり、オムツ外しや夜間入浴といった法人理念には入居者の状況を照らし合わせても難しい場合もあり、現在できる事に対応するようにしている。職員はホーム理念「入居者の残存能力を活かし、役割を担ってもらいながら安心して居場所を提供できるように援助する」を日々の生活の中で入居者に感じてもらうよう努力している。管理者は一年を振り返り、理念に深くかかわる機会や立て直しが課題として残ったとしている。	入職者へはオリエンテーションでホームの歩みを通じて理念を伝えるようにしているが、人員体制や入居者の状況などで細部まで伝える事ができなかったとし、職員からも同様の声があがっている。人員体制など根本的な課題には法人と一体となって取り組まれることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナが第5類に移行したが、現在まだ行事では外出計画は立案したが実施が出来なかった。ただし 散歩等で地域の方のふれあい等は少しずつだが回復してきている。	自治会に加入しており、回覧板のやり取りや地元子供会の廃品回収に協力している。コロナ感染症の5類移行後も地域との直接的な交流は難しかったものの、近隣を散歩する際には道行く人々との挨拶や立ち話ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	項目2と同様コロナウイルス感染拡大により、地域貢献ということがなかなか出来ていない。この期間、子供会の廃品回収が再開し、ようやくその協力が出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R5年の4月より ようやく 運営推進会議を再開できた。今回は 資源物のゴミの収集について自治会長より事業所としての回収をしてほしいかと、クレームに近い依頼があり 今年度より切り替えを実施した。	コロナ禍により書面審議としていた会議を、本年度は対面での直接開催に移行している。地域からの参加者が多く、情報を収集する他、不燃物回収についてホームへの協力依頼などを受けている。事故報告や身体拘束について現状を明らかにし、水害対策に訓練を実施したことなどを報告している。敬老の日の祝いが感染症にて中止となっていたことで、会議当日に地域代表者に表彰を依頼するなど和やかな場面も見られている。	会議に家族が参加していない事は残念であり、地域代表者や包括職員等が一堂に会する機会に新年度は是非参加を依頼するとともに、会議内容の報告を期待したい。また、職員の体制が整えば輪番でも会議そのものを体験されたらと考える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年に入り、中央区保護課からの状況調査において、生活保護の受給者の方へ直接の面談が再開され、入居者様の直接の要望が反映されやすくなった。	行政保護課との連携や、訪問調査時には居室で入居者との会話のやり取り、動作確認により現状を見てもらうこととしている。事故報告書について行政等から記録類の不備を指摘され指導を受けている。	記録方法や手順には個人差があり、読み手にわかりやすく的確にまとめる必要があるが、職員研修などで全職員が共有する事が求められると考える。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回は実施。特に今年度は センサーマットの活用 徹底により特に利用者に関して細かな 巡回を実施することで、抑制にたよらない転倒予防の強化に取り組めた	身体拘束適正化委員会を定期的に設置し、特にセンサーマットについて利用目的や弊害を理解し、細やかな見守りにて転倒などのリスク回避に努めている。言葉使いについては入居者にわかりやすい表現をするようにはしているが、気になる点はあるとして委員会で検討している。	新年度には虐待防止の推進が義務化されることが決定しており、年間研修計画などの作成が期待される。また、身体拘束の指針については虐待防止の指針とともに玄関内などに掲示されることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	春先に苦情が発生した 事務所にある記録により 十分な説明が家族にできないことがあり 家族に不信感を持たれ(最終的に虐待ではないと判断されたものの)退所に至ってしまった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居期間中新たに成年後見制度をする利用者がおられ、成年後見人との打ち合わせで生活必需品の代理購入等の支援などをサポートすることができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は、入退所者の動きが多く、入所者への対応はしっかりと説明はできていた。しかし脳梗塞による入院後、退所を余儀なくされたご家族様へ遅くなったり 不備になったことがあり、対象者のご家族様より多くの不信感を 招くことになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年も各ご家族様への個別対応だけになってしまった。特に入所者のご家族からご協力をお送りいただいていた古新聞紙の納入が滞ってしまいがちになった。近春より家族会開催を決定したためこの点を再度協力しご協力を得られればと考えている。	家族との面会は交流室で15分程度を目安に行っている。家族の意見や要望は面会や排泄用品などの持参時に尋ねるようにしている。入居者からは日々の会話から聞き取り、嗜好品や日用品の購入を依頼されるようである。3月末に家族会を計画しており、久しぶりに開催されることで意見の引き出しにも期待がもたれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特にリスクマネジメントの受ける職員の改善指摘を多く頂いた。また、物品購入のやり方を個別での買い物から一定業者に絞り購入、スタッフの個人負担を軽減することにある程度成功した。今年度もそれをさらに進めたい。	入居者の疾患の悪化などからの退居や、職員移動があったことで大変な一年だったと想像される。コロナ感染症が5類移行後も決して気を抜かず、冬以降に徐々に面会などを検討している。職員は其中で今できる事で向き合うようにしている。	夜勤体制の充実など課題はあるものの物品購入などについて業務改善が図られており、新年度からの取組に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年に引き続き 職員の入れ替わりが多く見られる。ただし 昨年までの懸念材料だったスタッフの若返りがある程度達成することができた。基礎疾患を抱えた職員や子育て中の職員へ日勤中心の勤務をしていることで、他の職員からの負担や不満を抱えていることが多く、今後も引き続き課題としてのこっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度の新入職員オリエンテーションが入所者の体調変化や既存スタッフの体調不良により左右され、十分できたとは言えず、新入職員からも全般に中途半端な教え方しかしてもらえなかったとのご指摘をいただいた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より、中央デイサービスセンター様がコロナウイルスの5類移行に伴い、行事等の再開をされ参加のお誘いを受けて当事業所からも参加を模索したが、こちらも参加にまでは出来なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の話に耳を傾け、ゆっくり聞くことを大切にしている。会話の中にある不安、要望など聞き逃さないようにしている。又、得た情報をスタッフ間で共有し不安や要望の解消に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と個別に話し合う機会を持ち、要望や不安などの聞き取りを行っている。必要時には連絡を行い、状況を報告し情報を共有し、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者が自立度が高い場合、その人の行動特性とくにご本人が「している」ことをしっかりを見極めることに重点を置いている。これが後々個々の利用者の認知機能や能力低下がみられた場合に効果を大きく発揮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の手伝いや洗濯もの畳み、食器拭きなどできることをスタッフとともに行って頂き、毎日の生活を担っているという自覚を待っていただけのように努力している。最近では、認知機能の低下により、モデリングにも力を注いで支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子を面会、来設時に伝えるよう心がけ、家族との絆を大切にしよう努めている。しかし同姓の方の請求書の送付ミスをきっかけに手紙による近況報告が不可能になってしまった。その為、TELやEメールでの連絡がより重要性を増している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活されてきた環境が維持できるように努めている。居室に写真や大切にされていたものを置いたりしている。また新たに家族が持ち込まれたもの、ホームからのプレゼント類もバリエーションに加えられている。	入居者にとって家族の存在が何よりであり、面会が時間の制限はあるものの、直接面会となったことで安心されており、職員の「○○さんが来られますよ～！」の声に表情が生き生きとされるとのことである。家族と近くの川沿いを散歩したり、娘さんからの便りを居室に飾られるなど家族との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置にも配慮し、会話や交流がしやすい環境作りに努めている。また、関わりができるようにスタッフがご利用者間の間に入り、関りが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族会の前会長をされていた方からボランティアの参加依頼があっている。代表者と相談して、本格的な依頼を実施予定としている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ADL低下が顕著となり、個人の生活活動が減少したが、個室での生活時には、時に巡回を行う程度とし、自由に過ごしていただいている。	職員は普段から入居者の思いを引き出しているが、車いす利用者が多くなったり、認知機能が進行する中で、ゆっくり支援することを心掛けている。意思疎通が難しくなられた方には、これまでの生活ぶりや家族の思いから推察し、入居者が安心して過ごせることを中心に支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	歌やレクリエーションの時間を中心に途中まで耳元で歌を歌ってみたり、拡声のアイテムを用いて、ご本人の聴覚に訴えることで、以前にやっていたことを思い出してもらい、自発的行動、活動を皆がしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の状態や状況には一人ひとりの個々の対応が必要で少し似た利用者もいらっしゃるが、年齢も違えば生まれた場所も違う言葉でも熊本み広く色々な方言があり、お一人の個性を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に担当者をつけておりその担当者の考えを反映できるように、モニタリングや現場での出来事などを把握して今の状態に必要なことに着目して対応を行う。 更にご家族の協力が必要な場合は協力を求めている。ご家族との面談は直接会うことができずに電話やお手紙などにてコミュニケーションを図る。	入居者を職員の担当制としており、普段の言動を通じて気付きを提案している。ケアマネジャーは入居から数年がたち体力や排泄レベルの低下が見られる中で、その方の持てる力を日常生活で発揮してもらいながら、テーブル席の配置を工夫し、賑やかな班に席を置くことで、他者との関わりを引き出すようにしている。現在、担当者会議が電話などでのやり取りであり、今後直接話を聞くことができるようになればとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者に対しては、申し送りの記録簿があり、全体的な把握をこの記録簿を利用して観ながら、詳細についてはスタッフの聞き取りや生活記録の内容を見て対応して介護計画への反映を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者との関りを現場の一員として中に入り、その時その時のニーズの把握に努めどんなことがニーズでその中にどんな問題があるのかを実際を目で見て耳で聞き感覚で感じながら反映をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	数年前まで毎日の日課にしていた散歩がほとんど行かなくなったが、たまにお出かけの時には、地域の方々との声かけや会話を欠かさないようにされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2週間に1回の定期回診を実施。また緊急時を含め、診療時間外においても看護師は指示に従って専門医の受診依頼を家族にもつなげることができていた。今回は特に救急搬送が多く見られ、また今年に入り看取り対応も多く見られていたため時間外に死亡診断等による訪問も多くしていただいた。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療を支援している。専門医受診は家族による対応が行われ、結果は職員へ報告されている。歯科は必要な方のみ訪問による治療が行われている。管理者は入居者の健康管理について引き続き主治医との連携に加え、ホーム内の現状から看護職との連携について課題を語っている。	看護職体制についての課題については、法人との協議により本人や家族、職員の安心につながる速やかな対応が期待される。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	年明けまで看護師とは24時間オンコール体制での対応をとっていたが、勤めていた正看護師が2月の退職、また管理者も今年度末交代のため4月以降の体制が現在課題となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この期間の入院対象者には比較的認知症状が進み BPSD が多く見られることが多く、その方々についての具体的な対応について情報提供を行った。また受け入れる際にも現状に対応できるようにレイアウト変更 同時にスタッフが立ち会う事でより安全な環境を確保することができた		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	コロナが第5類移行して以降、確実性の看取りが可能となり、家族の方と長時間の面会を実施することはできた。今回はターミナルケア1組の方がご家族の見守りにて最後を看取ってもらうことができた。	入居時にホームの看取りに関する方針を伝えて意向を確認している。家族の思いは変化するものであり、状態変化が生じたらその都度聞き取ることとしている。ホームでの看取りを希望されている家族も多く、研修会を実施しながら職員間の共有が図られている。コロナ禍の看取り期は居室の移動なども行われている。看取り後は本人を偲びながら振り返りの機会をもっている。	振り返りの中で職員はどこまでエンゼルケアを支援してよいのか？など意見が出されている。ホームでの最期を望まれている家族も多く、今後は職員の意見や心配事など率直な思いを法人へも報告し改善策や指示を受けながら出来得る支援に努めていかれる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ここ数年、特に新人職員の入れ替わりが大きいためできる限り入職者が集中した時期に緊急対応の勉強会を最優先に実施している。ただし、看護師が退職したことにより今後の緊急対応体制が弱くなることが否めず今後の課題になっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は数年ぶりに大きな台風や強風に当たることがなく、水害対策の実施をする機会はなかった。	今年度は夏と冬に昼・夜を想定した避難訓練を実施している。行政より台風、大雨警報の報告を受けた際は、風呂の水を保存したりおにぎりを作り有事に備えている。備蓄は水や食料と感染症用も確保しており、BCPの作成もすみ職員との共有が図られている。日頃から居室のコンセントの曲がりや埃などもチェックしているが、盆・正月は特に安全確認をしながら掃除をしている。	災害対策は地域の協力体制が重要であり、今後は近隣・地域へ有事の際の協力を依頼する事も必要と思われる。また、地域代表者や家族も参加する運営推進会議を活用した訓練も有効と思われる。今後の取組が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や性格、認知症の進行の違いを理解し、その人にあつた対応を心がけている。認知症に関する勉強会を行ったり、日頃の言葉遣いを職員で注意し合っている。	一人ひとりの性格や認知症の状態を理解した支援に努めている。難聴の方には本人に失礼のないようなジェスチャーで対応している。呼称は苗字や反応などから下の名前でも応じている。同介助の支援については、自身で伝える方もおられ、希望を聞きながら対応している。	今後は改めて職員の守秘義務(スマホ利用なども含め)について、マニュアルの作成や研修会への取組に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が判断するのではなく、本人に希望、意思確認を取ってから判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調気分は、その人がどのように過ごしたいか、本人の希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝よりホットタオルで顔拭き、覚醒を促し身だしなみを整えてもらっている。状況に応じ保湿クリームも使用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたいものを聞くなどして、メニューを考え、職員が手伝いできる方と一緒に食事作りをしている。見た目もおいしそうに思ってもらえるように、カラフルにしたりしている。	開設時からホーム内調理を継続し、職員も同じものを摂り思いを共有している。個々の嚥下力に応じてキザミやミキサー食で提供したり、自力での食事が難しくなれた方には、小鉢に移し食べやすいようにするなど個々に応じて工夫している。ケアマネジャーは、残歯がなくなった方にも意欲をもって食べられるような食事提供に努めていきたいとしている。	入居者にとって楽しみの食事であり、職員にとっても手作りの食事を摂れることは活力に繋がるものと思われる。継続した取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれ好みや嚥下状況により、とろみをつけたり、ゼリーを作成して水分を提供している。1日の水分量のトータルを、水分チェック表を用いて算出、それぞれが飲用量を把握している。今年度よりトロミ剤は個人購入からホーム購入へと変更した。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事が終わった方から声かけし実施している。口腔ケアの仕方が分からない方には、自分でできる様声掛けを工夫している。しかし、そのような方が昨年に比べ増加している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	比較的自立度の高かった入居者の重篤化が進んだため、その方々に対する介助、支援の方法が大きく変化した。特にテープ式おむつを常時使用することとなってしまったのは事業理念に反するものの柔軟な対応として実証している。	殆どの方がリハビリパンツを使用されているが、昼夜オムツで過ごされる方もおられる。夜間のみポータブルトイレを使用される方には使いやすい場所を検討する他、清潔な管理を共有している。排泄用品はホームで準備しているが、家族による持ち込みもあり参考になるようサイズや状況を伝えている。会議の中で状況に応じてパットを使い分ける事で、本人も気持ちよく過ごせるのではないかなど、支援方法に関して意見が出されている。	不快なく過ごせる排泄支援は、個々の尊厳にも繋がると思われる。今後も職員の提案が出された場合は速やかな検討に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後、きな粉牛乳、ヤクルト乳製品を提供して、便秘がある方はご家族に相談しに飲むヨーグルトをとって飲んでいただいている。また歩行できる方は歩行訓練で便通の促進につなげている。しかし、最近はそれでもうまくいかず、座薬使用による排便誘導の機会も増えているのが現状である		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を積極的に取り入れている。完全な介助が必要な利用者様には、かけ湯、足浴を実施している。週3回の入浴を、自立されてる方を先に、介助が必要な方を後に実施している。夕食後の入浴は、数名の方が楽しんでいる。入浴と楽しみは個々に異なることから、職員がアイデアを工夫することが期待される。季節湯等の告知も行っている。	現在、午後1時から18時の間で時には入浴剤を使用しながら介助の必要に応じて安全な入浴支援に努めている。また、季節湯(菖蒲や柚子湯)を行う際は、告知をして楽しみを持ってもらえるようにしている。	入浴回数については現在、職員配置の点から週1回の支援となっている。これから春・夏へと汗をかきやすくなる事から回数について早急な改善が望まれるところである。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の入床される時間やタイミングに基づき支援を実施している。一旦眠られた後で、再度覚醒された場合リビングでお茶を提供し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が届くと初めて薬剤情報や文章を確認する処方薬が変更していればミッションクリアケース記録会を閉じるなど職員間で共有できるようにしている。支援後は確実に食事した際、口腔内を確認して確かめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	最近が入居者様の自身で出来ることが減少していることもあり、洗濯たみや食器拭き等毎日の日課の活動の中で行ってきた活動を行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム外周に散歩しやすい土手がある。現在、歩行状態が良い方が居ないため時間が許す時は車椅子で近距離での外出により気分転換して頂いている。	コロナ5類移行後も感染症対策は継続しており、自宅への帰省などは控えている。ホーム近隣には散歩にふさわしい河川敷コースがあり、人員配置を見ながら車いすを使用しているの散歩に出かけている。今後は家族も一緒に外出を楽しんでいきたいとしている。	感染症や人員配置などの面から、入居者の希望に沿った外出支援は難しい現状にある。玄関先で車や人の往来を見ながら外気浴など、まずは出来得る支援に努めていかれる事が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお小遣いを家族から預かり、いつでも買い物ができるよう支援している。家族がお金を管理しこちらから必要な物を伝え買ってきてもらったりもして家族と連携をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけて欲しいと要望があればホームの電話を利用していただけるが、自ら要望する方は居ない。家族から電話があった際代わり会話して頂いたりする。手紙も要望があれば対応する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、光等調節している。リビングには季節感を取り入れた物や居心地が良くなるよう懐かしい歌謡曲など流したりしている。	1階ユニットのリビングと裏庭は続いており散歩などに出やすい環境にある。2階ユニットからは隣接する自動車教習所の車や人の動きを眺めたり、春には敷地内に咲く満開の桜を間近に愛でる事ができる。各ユニットで採光なども異なる事から温湿度の調整は、入居者やその時々に応じて行っている。日中は殆どの方がリビングでテレビを見たり、レクリエーションの時間を楽しんでいる。またホームで準備している新聞を読んだり、職員と一緒に洗濯物をたたむなど日課とされている方もおられる。	経年と共に桜の木も大きく伸び開花の時期は入居者の楽しみとなっているが、隣接する民家に迷惑ではないか等十分配慮する事が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ・TV・新聞・花など置いてあり一人になることが無いよう声掛けをしている。スタッフと一緒に洗濯たたみなどお手伝いしてもらったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住んでいた所のように家具を配置したり、家族の写真など飾り安心して過ごせるよう工夫している。またご家族からの持ち込みの品物やホームからのプレゼントも追加して飾っている。	掃き出し窓の開放感のある居室には、クロゼットが備わっており排泄用品や季節外の衣類・布団などが収納されている。物品の配置も自宅に居た時と同じような雰囲気になるよう、家族にも尋ねながら設置している。テレビを持ち込まれている方もおられるが、リビングのテレビを他の入居者と一緒に見られるようである。日常的な衣類は以前のように木製のタンスを準備される方は殆どおられず、中が確認しやすいプラスチックケースに収納されている。家族手作りのハガキ入れや思い出の写真が飾られた部屋など、それぞれの家族の思いが伝わってくる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者に出来る事を維持してもらえよう、行動空間や居室など工夫を行っており自立と安全のバランスに気を配っている。歩ける方は歩行状態が不安定な為、見守りを強化している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100933		
法人名	社会福祉法人 創友会		
事業所名	グループホームこせん 2F		
所在地	熊本市中央区壺川二丁目3-70		
自己評価作成日	令和6年3月13日	評価結果市町村受理日	令和6年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本城のお堀を流れる坪井川沿いに位置し自動車学校の教習場に隣接している。近隣には幼稚園、保育園、小中学校があり、幼児から高齢者まで共に暮らす地域となっている。開設3年目を迎え、地域の方や他事業所からも様々な場面でお声掛けを頂いている。又、近隣の協力医より定期往診以外にも24時間のサポートがあり、利用者とそのご家族が希望される「健康で安心できる生活」に近づける支援体制となっている。沢山の方々を支えて頂きながら利用者を取り囲む全てを「家族」と捉え、スタッフも「大家族」の一員になれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の重度化に伴い 特にオムツ外し、夜間入浴の法人理念については現状に即したやり方に対応してるのが基となっている。管理者の交代となる来年度、事業所理念を立て直すことが課題として残った。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナが第5類に移行した現在もまだ行事では外出計画は立案したが実施が出来なかった。ただし 散歩等で地域の方のふれあい等は少しずつだが回復してきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	項目2と同様コロナウイルス感染拡大により、地域貢献ということがなかなか出来ない。この期間、子供会の廃品回収が再開しようやくその協力が出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R5年の4月よりようやく運営推進会議を再開できた。今回は資源物のゴミの収集について 自治会長より事業所としての回収をしてくれないかと、クレームに近い依頼があり今年度より切り替えを実施した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年に入り中央区保護課からの状況調査において、生活保護の受給者の方へ直接の面談が再開され、入居者様の直接の要望が反映されやすくなった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回は実施。特に今年度は センサーマットの活用 徹底により特に利用者に関して細かな巡回とを実施することで、抑制にたよらない転倒予防の強化に取り組めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	春先に苦情が発生した。事務所にある記録により十分な説明が家族にできないことがあり家族が不信感を持たれ(最終的に虐待ではないと判断されたもの)退所に至ってしまった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居期間中新たに成年後見制度をする利用者がおられ成年後見人との打ち合わせで生活必需品の代理購入等の支援などをサポートすることができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は入退所者の動きが多く、入所者への対応はしっかりと説明はできていた。しかし脳梗塞による入院後、退所を余儀なくされたご家族様への遅くなったり不備になったことがあり対象者のご家族様より多くの不信感を招くことになった		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年も各ご家族様への個別対応だけになってしまった。特に入所者のご家族からご協力をお送りいただいていた古新聞紙の納入が滞ってしまいがちになった。近春より家族会開催を決定したためこの点を再度協力しご協力を得られればと考えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特にリスクマネジメントの受ける職員の改善指摘を多く頂いた。また物品購入のやり方を個別での買い物から一定業者に絞り購入、スタッフの個人負担を軽減することにある程度成功した。今年度もそれをさらに進めたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年に引き続き職員の入れ替わりが多く見られる。ただし昨年までの懸念材料だったスタッフの若返りがある程度達成することができた。基礎疾患を抱えた職員や子育て中の職員へ日勤中心の勤務をしていることで、他の職員からの負担や不満を抱えていることが多く、今後も引き続き課題としてのこっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度の新入職員オリエンテーションが入所者の体調変化や既存スタッフの体調不良により左右され、十分できたとは言えず、新人職員からも全般に中途半端な教え方しかしてもらえなかったとのご指摘をいただいた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より、中央デイサービスセンター様がコロナウイルスの5類移行に伴い行事等の再開をされ、参加のお誘いを受けて当事業所からも参加を模索したが、こちらも参加にまでは出来なかった。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階でも、本人の情報をより多く集める事を念頭に置いている。その情報を職員間で共有しケアに活かすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意思を尊重したうえで、家族の要望を出来る限り、実践できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを確認し状況をふまえ今必要な支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に出来る事は実施するようにしている。また今年度は入居者の入れ替わりが大幅に見られ、自立度の高い入居者も増えたため、その配分にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子を面会、来設時に伝えるよう心がけ、家族との絆を大切にしよう努めている。しかし同姓の方の請求書の送付ミスをきっかけに手紙による近況報告が不可能になってしまった。その為、TELやEメールでの連絡がより重要性を増している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を尊重し馴染み親しんだ物や想いを大切にしている。社会の状況に応じ、面会にもその都度工夫して支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や力量を見極め職員が積極的にかかわり支援している。また、リビングの席の配置もその点を配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も出来る限り関係性を継続するよう努めている。退所された利用者様のご家族様からイベント手伝う事をぜひ読んでほしいと声を頂いている現在はこの中で整理できていないか心強く思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿うよう過ごしやすい毎日が送れるように、スタッフ間でも支援に努めている。重度の認知症に対して理解が難しい方には、その都度計上し、その方の気持ちに沿った暮らしができるよう努めている。また過ごしやすい環境の提供に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や情報収集を行い、これからの暮らしに役立つ様試みている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムに合わせてその人らしく生活できるよう努めている。歌を使って小さなことでも気づき合い、話し相手を務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したケアプランなど家族の要望や本人の状態変化があった場合にモニタリングを行い、利用者様家族様の現状に合わせて変更を行っている。例えば計算が得意な方には、相談し家族にドリルを依頼し毎日1ページずつ取り組んでもらう様プランの中に入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子等はケース記録や暮礼ノートを活用し情報を得るようにしている。会議で個別ケアカンファレンスを行い介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の展開の中で看取りの利用者様の家族に対しては感染対策に留意し特別に何時間の面会ができるようにしていた。またSNSを活用しご家族様との了解のもと日常生活の配信の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域行事には参加できていない状況が続いているが天気の良い日は散歩に出かけすれ違う地域の方に挨拶や応援を答え楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2週間に1回の定期回診を実施。また緊急時を含め、診療時間外においても看護師は指示に従って専門医の受診依頼を家族にもつなげることができていた。今回は特に救急搬送が多く見られ、また今年に入り看取り対応も多く見られていたため時間外に死亡診断等による訪問も多くしていただいた。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	年明けまで看護師とは24時間オンコール体制での対応をとっていたが、勤めていた正看護師が2月の退職、また管理者も今年度末交代のため4月以降の体制が現在課題となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この期間の入院対象者には比較的認知症状が進み BPSD が多く見られることが多く、その方々についての具体的な対応について情報提供を行った。また受け入れる際にも現状に対応できるようにレイアウト変更、同時にスタッフが立ち会う事でより安全な環境を確保することができた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特にコロナ禍ということで、ターミナル期に入った後での面会に困難を極めることになった。また2階の方については非常階段より直接出入りできる1室を除き、他の利用者に居室へ戻ってもらい、リビングでご家族とご本人のみで対面出来る形をとった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ここ数年 特に新人職員の入れ替わりが大きいため できる限り 入職者が集中した時期に緊急時対応の勉強会を最優先に実施している ただし 看護師が退職したことにより今後の緊急対応体制が弱くなることが否めず今後の課題になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は数年ぶりに大きな台風や強風に当たることがなく水害対策の実施をする機会はなかった。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が居室で過ごす時間を希望される場合には、その意思やペースを尊重している。排泄については、ポータブルトイレを日中にも活用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今年度の入居者は自立度が高い方が多く、ご本人が居室で過ごす時間を希望される場合にはその意思やペースを尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要介護者の高い利用者が多く長時間リビングでの姿勢維持が困難がこともあり、午後を中心に臥床時間を設け、ゆっくりと除圧をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、ホットタオル洗面を実施、衣類はご本人の好みや体温の調整のしやすさに合わせ衣類を準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状況に応じて、季節のものや誕生日行事時にお祝い用の食事を提供するようにし、毎年誕生会には午後のおやつに手作りのパースデーケーキを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食以外にも二度炊き飯や、刻み食、ミキサー食等形態を取り入れている。水分はチェック表を使用し水分量の把握に努める。補水強化のため、紅茶ゼリーを使用し水分摂取支援を行う利用者もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昨年度の新規入所者は全般的に自身でされている。うがいが困難な方もおられるため、その方々には、口腔ケアスポンジを使用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	比較的自立度の高かった入居者の重篤化が進んだためその方々に対する介助、支援の方法が大きく変化した。特にテーブル式おむつを常時使用することになってしまったのは事業理念に反するものの柔軟な対応として実証している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後、きな粉牛乳やヨーグルト乳製品を提供して、便秘がある方はご家族に相談しに飲むヨーグルトをとって飲んでいただいている。また歩行できる方は歩行訓練で便通の促進につなげている。しかし、最近はそのまうまくいかず、座薬使用による排便誘導の機会も増えているのが現状である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まっている入浴日以外に、本人の希望によって日にち時間をずらす対応をしている。入浴拒否がある方は、声かけを工夫して入浴していただいている。脱衣所にエアコンがないため、冷風機や温風機を使用し室温調整をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外への散歩や室内歩行訓練を行い生活リズムを調えている。浅い眠りの傾向の方は、眠前薬の与薬時間をずらしたり、日中画商対応をしている方はラジオや音楽をかけ昼夜逆転がないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週水曜日薬セッティングの際に、ケース記録に毎週最新の臆する情報と閉じている また薬の変更があった場合 生活日誌や、暮礼ノートに記入し、各スタッフが確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の利用者の職歴や好きなものを情報収集し、音楽や踊りピアノ等をレクリエーションに取り入れている。またコーヒーや菓子、ワインなどの嗜好品を、ご家族持ち込みや預かり金で購入して提供し喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のなかで、外へ出す機会は激減しているが、可能な限りプレイパーク周辺やホーム内駐車場の散歩を実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、預り金は管理者が事務所で管理。必要に応じ、ご本人から物品購入の依頼があった場合、また生活必需品が不足している場合には購入支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族のご希望で、ご家族から手紙を送ってこられる方がおられ、必要に応じて、代読や返信を書いてもらうことがあり、その支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1Fに比べて光が入りやすい環境のため、サッシに近いエリアでは明かりを消したり、西日が入る夕方には、レースカーテンを閉めて調整。リビングには季節感を取り入れた物や居心地が良くなるよう懐かしい歌謡曲など流したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご家族からお花が届くことがあり、生け花がという得意な利用者に生けてもらっている。スタッフと一緒に洗濯たたみは、その人のレベルに応じた能力を発揮できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住んでいた所のように家具を配置したり、家族の写真など飾り安心して過ごせるよう工夫している。またご家族からの持ち込みの品物やホームからのプレゼントも追加して飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者に出来る事を維持してもらえよう、行動空間や居室など工夫を行っており自立と安全のバランスに気を配っている。歩ける方は歩行状態が不安定な為、見守りを強化している。		